

事例1

< 事例概要 >

- ・ 60 歳代の患者。5 年前、総胆管結石に対し内視鏡的乳頭切開+ 結石除去術。胆嚢結石は残存し経過観察中。高血圧症合併。
- ・ 死因は、胆嚢動脈分枝の損傷を起因とした出血性ショック。死亡時画像診断 (Ai) 有、解剖有。
- ・ Mirizzi 症候群と診断し内視鏡的経鼻胆管ドレナージで胆泥除去後、逸脱型膵管ステントを留置。1 か月後、腹腔鏡下胆嚢摘出術施行。
- ・ 剥離中、胆嚢動脈または副胆嚢動脈を認識せずにエネルギーデバイスで切離。胆嚢床の剥離困難のため手術開始約 40 分後開腹移行。術中出血量約600 mL、手術時間約 3 時間。
- ・ 術後 1 日目、肝下面に留置されたドレーンからの排液40 mL、バイタルサインは安定していた。夜間トイレで意識消失した状態で発見、約 1 時間後に死亡。